



# 興楽園 (西興部村)



腰掛け待合から、蹲踞を経て興楽庵に至る露地の雰囲気は素晴らしい

## 貴重な茶室をもつ本格的日本庭園

「興楽園」は、地元で林業会社を営む故三浦新次氏により、地域の自然を活かした私設庭園として昭和30年代から造営を開始し、歳月をかけて1970(昭和45)年に完成させた本格的日本庭園である。約8,000㎡の敷地には、北海道らしい針葉樹を中心とした巨木の森が保存されており、林床は一面苔に覆われている。庭園中央部には、石組みを施された大小の池泉があり、回遊する園路が配されている。

造営当時の面影を残す総オノコ造りの茶室「興楽庵」は、外路地、漆喰の腰掛待合等を備える本格的な設えを持ち、極めて貴重である。「興楽庵」と共に、1990(平成2)年に建造された道内産アカエゾマツを使用した茶室「興楽亭」では、通年で村内外の茶道サークルをはじめ、小学校の茶道教室などにも使用されており、地域に愛された身近な庭園として、地域文化の醸成、継承にも大きく役立っている。



総オノコ造りの茶室の造作も見物である

## 概要

名称	興楽園
所在地	北海道西興部村字西興部290番地1
管理者	西興部村
規模	約8,000㎡
種別等	庭園
整備年	昭和30年代から
開設年	1970(昭和45)年に完成
	1987(昭和62)年に村に譲渡



興楽亭でのお点前の様子